

大切なあなた・家族のためにも

40歳から 20歳から  
子宮頸がん検診  
乳がん検診

の受診を  
おすすめします

「子宮頸がん」は若い女性に増えています

子宮頸がんは、子宮の入口（子宮頸部）にできるがんです。30歳代に多いがんですが、20歳代後半から増えてきています（グラフ1）。20歳代の女性で一番多いがんです。

子宮頸がんは、主にヒトパピローマウイルス（HPV）が子宮の入口に感染することで発症します。HPVはごくありふれたウイルスで、性交渉の経験がある女性は生涯で約80%が感染するといわれています。性交渉を経験する年頃の女性は誰でも子宮頸がんを罹患する危険性があります。

子宮頸がんのがん細胞の増殖はゆっくりで、定期的に検診を受ければがんになる前の段階で見つけることが可能です。早期に発見し治療すれば、子宮頸がんの5年相対生存率（\*）は90%以上です。

（\*）相対生存率は、がん以外の原因で亡くなる人の影響を除いた数値です。

たまには母娘と一緒に検診に行ってみるのもありかも？



婦人科検診について

対象者に受診券を送付します

【対象者】

- ▶令和4年度に市の婦人科検診を受診した人
- ▶令和5年度に未受診かつ25、30、35、45、50、55、60、65歳の人
- ▶令和5年度に未受診かつ健康推進課に令和6年度婦人科検診の受診希望の連絡をした人

無料クーポン券を配布します

【令和6年度対象者】

- ▶子宮頸がん=平成15年4月2日～平成16年4月1日生まれ
- ▶乳がん=昭和58年4月2日～昭和59年4月1日生まれ

令和5年度に婦人科検診を受診していないが、お手元に受診券が届いていない人で今年度受診を希望する場合、申請フォーム(右の二次元コード)もしくは健康推進課(☎0024)までお申し込みください。

※令和5年度に婦人科検診を受診された人は、令和6年度に婦人科検診を受診できません。

検診会場 ※「子」=子宮頸がん、「乳」=乳がん(マンモグラフィ検査)、「骨」=骨粗しょう症

実施機関	会場	子	乳	骨	受診可能日	予約方法	実施期間	オプション検査料金
聖隷予防検診センター(集団検診)	公民館、さざんか、相良保健センターなど(託児日程あり)	○	○	○	受診券の同封文書参照	WEB、ハガキ	8月～11月	▶乳がん検診エコー検査(3,850円) ▶骨粗しょう症検査(*)
榛原総合病院(個別検診)	榛原総合病院 南館 6階 健診センター(細江2887番地1)	○	○	×	申込時に問い合わせ(一部土曜日受診可能)	電話	12月21日 国まで	▶HPV検査(4,400円)
あかほりクリニック(個別検診)	あかほりクリニック(片浜873番地2)	○	×	×	月～土曜日(木・土は午前のみ)	WEB、直接来院	12月27日 国まで	なし

\*骨粗しょう症検診の対象年の人(令和6年3月31日時点で40、45、50、55、60、65、70歳の人)は、1,300円で受診可能です。それ以外の人、2,750円です。

検診の日程、内容について

詳しい日程、場所、検査項目は、市ホームページまたは受診券の同封文書をご覧ください。

●女性の総合がん検診について

婦人科集団検診では、「複合がん検診」と「婦人科検診」を同日で受診できる日程があります。完全予約制で、全ての検診を約1時間で受診することができます。

日程	会場	申込期限
9月20日 国	地頭方原子力防災センター ジーボ	8月30日 国
11月18日 国	相良総合センター い〜ら	10月28日 国

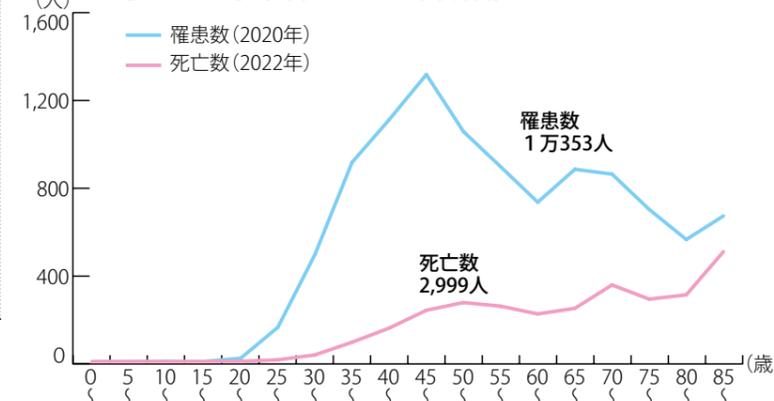
\*人数に限りがありますので、希望する場合は、早めに予約をしてください。

【検診内容】

	検診名	対象年齢(令和6年3月31日時点)	自己負担金
婦人科検診	乳がん検診(マンモグラフィ検査)	40歳以上で前年度に受診していない人	2,000円
	子宮頸がん検診	20歳以上で前年度に受診していない人	1,900円
	骨粗しょう症検診	40歳以上	1,300円(*)
検がん	胃がん検診	40歳以上	1,900円
	結核・肺がん検診	40歳以上	無料
	大腸がん検診	40歳以上	1,000円

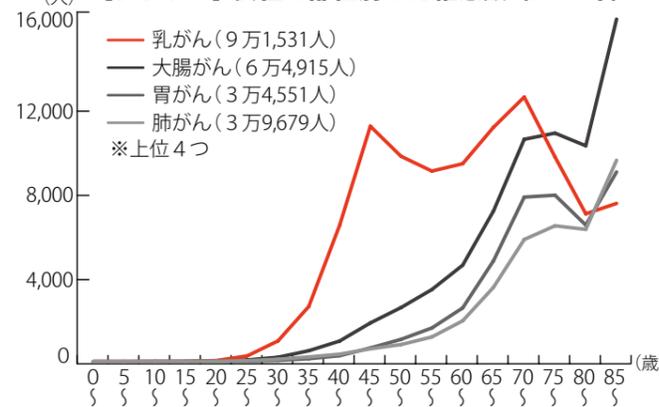
\*40、45、50、55、60、65、70歳の人、1,300円で受診可能です。それ以外の人、2,750円です。

【グラフ1】子宮頸がんの年代別罹患数・死亡数



「グラフ1」3出典 国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」 ※全て人口10万人当たり

【グラフ2】女性の部位別がん罹患数(2020年)

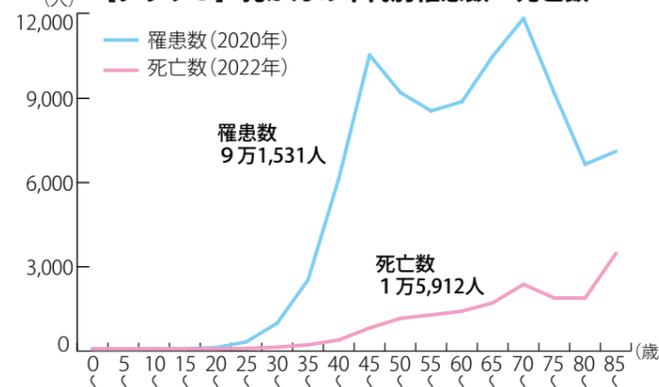


女性にとって「乳がん」は とても身近な病気です

乳がんは女性に一番多く(グラフ2)、女性の約9人に1人がなるといわれています。40～50歳代をピークに罹患が増加し(グラフ3)、子育てや仕事など一番忙しい時期にかかりやすい病気です。

乳がんは、小さいうちに見つける と治る可能性の高い病気です。早期

【グラフ3】乳がんの年代別罹患数・死亡数



に発見し治療すれば、乳がんの5年相対生存率は95%以上です。

乳がんの多くは、乳房に固いしこりをつくります。しこりを感じなくても乳頭から血液が出てきて見つかることもあります。プレスト・アウェアネス(乳房を意識する生活習慣)も乳がんの早期発見に効果的です。入浴や着替えの際に自己触診をする習慣をつけ、異常が見られたらすぐに「乳腺科」を受診しましょう。

女性特有のがんは若年齢化が進み、20～40歳代の罹患が急増しています。乳がんや子宮頸がんは女性の誰もが罹患する可能性があり、検診を受けずにいると大切な体の一部や機能を失い、命に関わることもなにかねません。

早期発見・早期治療ができるように、2年に1回は必ず検診を受けましょう。問い合わせ 健康推進課 近藤 ☎(23)0024

